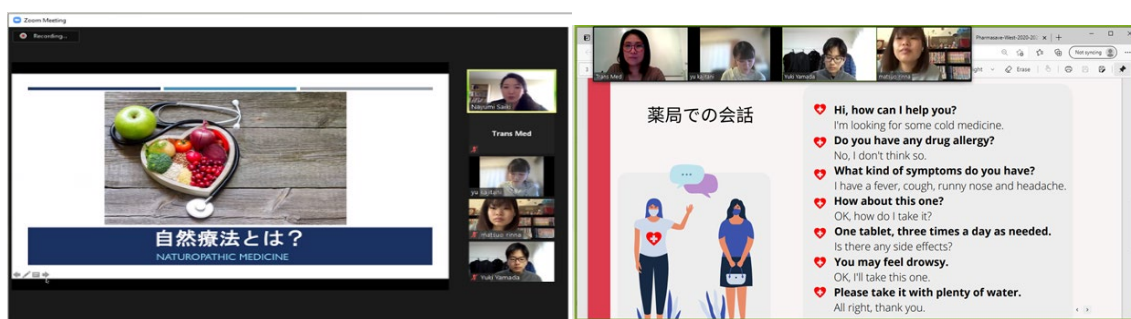


国際交流基金助成事業報告書

薬学部 5 年次生 山田裕己

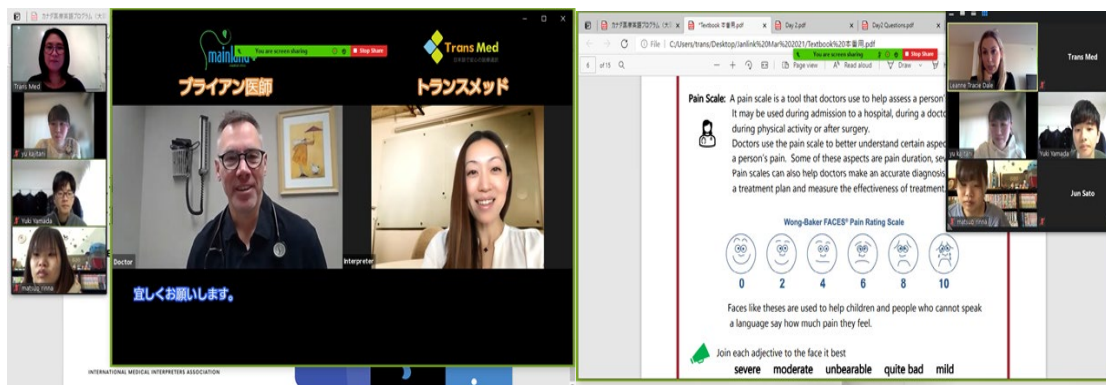
1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受け、2021 年 3 月 9 日～3 月 13 日までの 5 日間、大阪薬科大学専用プログラム カナダ オンライン留学 医療英語・施設視察コースに参加したことを報告致します。カナダで薬剤師として勤務されている方から日本とカナダの薬剤師の違いや初回問診、服薬指導の方法について伺うことができました。また、薬剤師だけでなく自然療法医や医療通訳士の方からもお話を伺うことで、他職種の理解も深めることができました。



2. 通信手段

今回の留学プログラムは、Zoom を介して行われ、当日は通信障害なくスムーズに行うことができました。事前に PDF ファイルで頂いた教材を使用する場合は、画面共有機能を使って授業が進められました。さらに、医療通訳士の方がカナダのクリニックの医師にインタビューしている動画も見せていただき、日本とカナダのクリニックの違いについて知ることができました。



3. ゲストスピーカー

授業の 2 日目にはカナダで働く薬剤師の方から、5 日目には自然療法医の方から仕事の内容について伺いました。

1) 現地の薬剤師の方のお話

まず、薬剤師の立場の違いに驚きました。カナダでは薬剤師が処方を書き換えることが許され、同じ薬効の薬であれば薬剤師の判断で他の薬に変更することが可能となっていました。また、日本の薬局では原則全ての患者を受け入れるようになっていますが、カナダでは患者の受け入れ拒否もできることを知りました。

次に薬局の運営面について、処方箋は患者が持ってくるのではなく、基本的には医療機関からファックスで送られてくる形式となっていました。また、併用禁忌の確認が厳しく行われており、調剤棚から取り出した薬のバーコードを読み取った際には、併用禁忌の警告が表示される機器が導入されていました。

そして医薬品について、日本では錠剤はPTPシートに入っていますが、カナダではボトルでの保管が主流となっていました。また、カナダのジェネリック医薬品普及率は98%であり、特殊な保険に加入している人や金銭的に余裕がある人以外は、基本的にジェネリック医薬品を希望していました。さらに日本では半錠の調製は薬剤師が行っていますが、患者ご自身が半錠にして服用しているとのことでした。

最後に終末期医療について、日本では麻薬を使うことの抵抗がわずかながら残っていると思いますが、カナダでは麻薬が主流となっており、疼痛で苦しむ患者が少ないということを知りました。さらに終末期の治療では医療費が全額自己負担外となっていることから、経済的な負担が少ないことも知ることができました。



2) 自然療法医の方のお話

まず自然療法医とは、治癒力を高めて体のバランスを整えることで、病気の根本的な原因を改善していくことに貢献する職種であり、追加で資格を取得すれば医薬品も取り扱うことができます。主に甲状腺や女性ホルモン関連、抗生物質を取り扱うことが多いと聞き

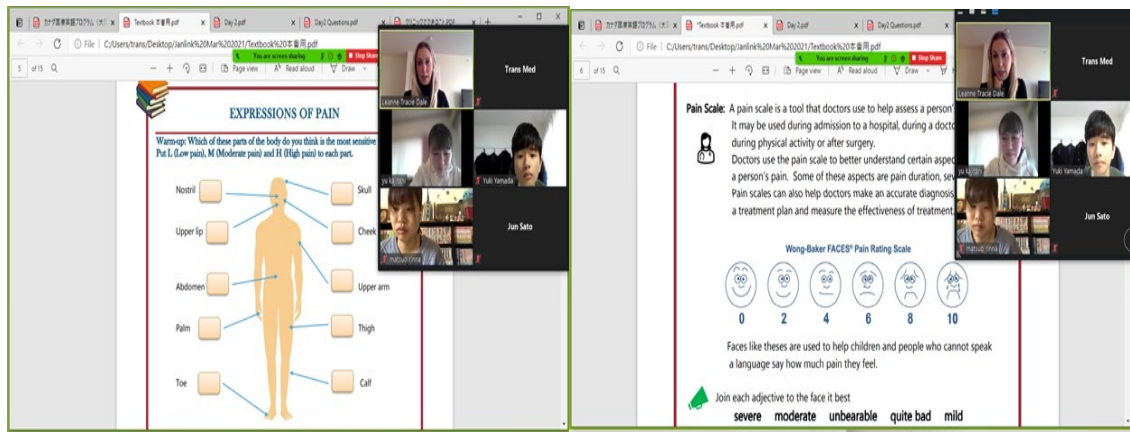
ました。

医薬品に加え、食事やアレルギーの面からも健康にアプローチしており、サプリメントやハーブを患者に勧める際には①アレルギーや食物不耐性がないか ②宗教的な食事制限がないか ③薬や他のサプリメントとの相互関係 ④薬による栄養素の欠乏 に注意していると聞きました。



4. ロールプレイング

授業の3日目と4日目には、カナダの薬剤師の方を交えて初回問診と服薬指導のロールプレイングを行いました。今回のプログラム参加にあたって、大学4年次に履修した薬学英語を復習していたことから、単語の意味についてはある程度まで理解できましたが、発音の練習についてはあまりできていなかったため、今後は単語の意味だけではなく、リスニングの練習も行っていきたいと思いました。しかし、会話の意味が理解できない時は、薬剤師の方が分かりやすい表現に変換して話してくださったため、最初にあった緊張感が和らぎ、英会話を楽しむことができました。また、聞き取れなかった時には臆することなく「Please tell me one more time?」と積極的に質問することで、会話の理解力を高めていきたいと思いました。



5. まとめ

今回の5日間のプログラムを通じて、医療英語や海外の薬剤師について理解を深めることができ、充実した時間を過ごすことができました。元々私は英語が苦手なことで語学の学習に少し壁を感じていましたが、今回実際に英語を使ったことで英会話に楽しさを覚え、今後も継続的に語学の勉強に励みたいと考えるようになりました。今回の英語のように今後何かの壁に当たった際には、そこから逃げるのではなく、克服に向けて果敢に挑戦することで、自身を成長させていきたいと思いました。

今回のプログラムで関わってくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、学んだことを今後の学生生活や就職活動に活かしていきたいと思いました。